

2025 11/25

No.2247

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
—神奈川政経懇話会—



次世代の乗り物として期待される大型ドローン「空飛ぶクルマ」（全長約6メートル）が、相模総合補給廠一部返還地（相模原市中央区）で7日、県内初の無人実証飛行を行った。「さがみはらフェスタ2025」（8, 9日）で公開された。



contents

視点点描	
本県勢、もう一人の大臣	3
特集	
新聞記者がネット記事を バズらせるために考えたこと	4
経済双眼鏡	
どうなるデフレ脱却宣言 『サナエノミクス』の暴走	8
よんななエコノミー	
「絶対に戦争をしない」 野中広務さん「生誕100年」	9
水谷竹秀×リアルワールド	
名古屋主婦殺害 遺族の執念	10
カニササレアヤコのNEWS箸休め	
真摯で、哲学の通った音	11
くらし2025	
自治体の終活支援続々 単身者や子のない夫婦対象 負担と継続性に安心感	12
神奈川景気データファイル	
	14

事務局だより

◇2025年12月定例講演会
(シンポジウム・会員交流会)
12月15日(月)午前11時～午後1時30分
ロイヤルホールヨコハマ
(横浜市中区)
講師：共同通信社政治部長
倉本 義孝氏
共同通信社経済部長
加藤 裕氏
共同通信社外信部長
井上智太郎氏
神奈川新聞社論説主幹
鈴木 達也氏
演題：2026年の動向を読む

◇2026年1月定例講演会
1月15日(木)午後1時30分～3時
神奈川新聞社12階大会議室
(横浜市中区)
講師：文芸評論家 三宅香帆氏
演題：なぜ働いていると本が読めなくなるのか

◇2026年2月特別講演会
(講演・交流会)
2月18日(水)午後3時30分～7時30分(予定)
ホテルニューグランド
(横浜市中区)
※講師・演題は調整中

【お知らせ】会報「政経かながわ」に会員企業の新商品の紹介、地域貢献活動、人事などジャンルを問わずさまざまな会員情報を持載しています。掲載の問い合わせなどは事務局☎045(226)2121。



本県勢、もう一人の大臣

高市早苗内閣が10月に発足し、神奈川から小泉進次郎防衛相（衆院11区）と赤間二郎国家公安委員長（14区）の2人が入閣した。本県勢として、広い意味で言えば、もう一人、加えていいかもしれない。自民党川崎市連で顧問を長く務める片山さつき財務相（66）＝参院比例＝である。

翌年2005年夏に自民党を歴史的大勝に導いた郵政解散・総選挙があり、政治家に転身を果たす。それ以前にも本県の知事選に自民が担ごうとするなど政界への誘いはあつたが、小泉純一郎首相直々の要請に覚悟を決めた形だった。

初めて会ったのは21年前。國の予算案が固まる年の瀬、全国の地方紙記者らが地元に付いた予算を確認しようと、深夜の財務省内を2010年参院選で当選した直

後、自ら市連に所属申請があつたという。国の予算策定時には市議院に情報を入れるなど、地元議員らしい活動には定評がある。10月の川崎みなど祭りにも顔を見せ、港関係者の間を回っていた。

高市首相もサッチャード首相を尊敬する人物に挙げている。男性中心社会の中で苦労したであろう二人。首相と財務相に初めて女性が就いた意味は小さくない。強過ぎる保守色が警戒もされる内閣だが、社会全体のジェンダー平等が前進することを願いたい。

首相の指示書には「責任ある積極財政」「経済成長と財政健全化」と並ぶ。かじ取り一つが国を左右する重責に、古巣への凱旋も感慨に浸る暇などないのだろう。

議員会館で取材した時、政策形成を官主導から政治主導に転換した小泉内閣の成果を力説してい

（神奈川新聞社地域共創本部
川崎統括兼編集局員・高本雅通）

動き回る日のことだつた。私も県内の米軍基地関連予算を取り材しようと、担当部署に向かつた際、そこにいたのが女性初の主計官の片山氏だった。

当時、防衛費に果敢にメスを入れ、反発する防衛庁との攻防が世間を騒がせていた。要件を伝えると、男性部下らに「こちら厚木基地関係。記者さんをお待たせしないように」とよく通る声でてきぱき指示を飛ばしてくれた。

977年、東京教育大付属中（筑波大付属中）を訪問したが、付属

977年、東京教育大付属中（筑波大付属中）を訪問したが、付属高にいた片山氏も一生徒として出迎えたという。「女性政治家として彼女は輝いていた。鮮明に覚えている」。そう言っていた。